

# いしづち

愛媛労災病院広報紙第2巻第7号

(通巻第13号)

2004年7月5日発行

発行人：病院長 西岡幹夫

## 【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、  
そして地域の人々のために  
信頼される医療を目指します



## 医療のうねり

病院長 西岡幹夫

今注目を集めている医療マネジメント学会の第6回総会が、6月初旬高松市で開催され、当院からも多数の職員が参加するので、私も急遽、出席することにした。その分厚い抄録集を見ると、やはり、内容は旧本研究会のメインテーマであったクリティカルパス関連が最も多く、次いでリスクマネジメント、感染対策、医療連携、NSTなどが続く。かつて経験したことのないような多種類のテーマが盛り込まれており、新時代の息吹を感じる。当院からも、平井三重子さん、西麻希さんらが、「多職種チームによる医療安全パトロールの効果」、「NSTにおける管理栄養士の関わり」など、日頃の成果をそれぞれ発表し喝采を浴びたとの報告を受け、うれしかった。さらに本学会の特徴は多職種の人々の参加であり、医師が3割、看護師が3割、その他は薬剤師、コメディカルのみならず、管理者、事務職員などと聞く。今回も3,500人以上の会員がサンポートホテル高松に集い、会場にあふれ、「門前市をなす」のには驚いた。21世紀の医療は、多数の専門職が参加する、広義の医療であることを如実に示された思いがしたのは私だけではあるまい。新しいアイデアが生まれ、人が集まり、議論し、そして革命が起こるのは歴史が教えるところであろう。新しい医療のうねりがまさに、始まろうとしている。

今年の「いしづち」新年号において、「新しいチャレンジ」をお願いしたことは皆さんご記憶であろう。では、何をどうするか。今回、若松義人・カルマン株式会社社長による招待講演「激動する環境に対応するトヨタ式経営」は傾聴に値した。どうしてトヨタがこんなに元気が良いのか、それは変わり続けるからだと言う。そして、「ムダ、ムラ、ムリ」を徹底してとり除く。ものづくり社会、ビジネス社会の競争原理はそのままでは医療の世界には通じないだろう。しかしわれわれも、一人一人が様々な視点から現状を見つめ直し、当院の理念に徹したいものだ。なお、今回の本紙においても、それぞれの分野において、新しいチャレンジが紹介され、うれしい限りである。

## ホームページ更新のお知らせ

リニューアルにあたって

ホームページ運用委員会 黒住 望

当院のホームページの作成を最初に手がけて約2年経過しますが、今回ホームページをリニューアルいたしました。旧バージョンは経費節約のため全てが手作りということもあって、「デザインの統一性がない、見栄えがしない、はずかしい」等々の酷評をいただきました。今回は、予算もしっかりつけて頂き、素晴らしい委員会のメンバーと制作会社（ミトラ）の御陰で全く別物に生まれ変わりました。今回は作成にあたりデザインや操作性の統一をめざし、内容の再検討、更新を行ったほか、問い合わせメールへの対応やお見舞いメールなどの新しい企画も採用いたしました。是非一度、御覧ください。

しかしながら、ホームページというものは一度できあがりますと、メンテナンスや情報のアップデートが非常に重要な課題となってきます。内容的に

### 祝ホームページ更新

看護部

当院の看護体制の特徴は、「固定チーム継続受け持ち制」です。これは入院する患者様に対して、受け持ち看護師を決定し、担当する患者様の入院から退院までを責任をもって看護するシステムです。また昨年度の機能評価受審をきっかけに様々な方面から体制の見直しを行ってまいりました。特に安全対策や感染対策は、病院の委員会と看護部の委員会組織とがリンクしながら活動して、より安全で快適な入院生活が送れるように取り組んでいます。

教育では卒後1年目から5年目までを段階教育とし、他3つの専門コースと、全看護師を対象とした研修を実施し、臨床実践能力の向上を図っています。そんな取り組みがこのホームページを通して、見てくれた方の目にとまればいいなと思って作成しました。

医療はサービスの時代に変革し、病院は独自の経営方針から患者サービスを考える時代になりました。患

者も面白くりピーターが多くなるようなホームページにするには、是非とも病院職員全員のご協力が必要です。まだ一部、未完成の部分もありますが、これからもよりよいホームページにしていきたいと存じますのでよろしくお祈りします。

図は制作中のものです



者の立場からみれば、そのサービスが自分のニーズにあっているかどうかで、通う病院を決定する時代です。そのためには「自分の病院はこんな病院です」とアピールし、その上で選んでもらえるかどうかがかギとなります。私たちが行っている看護がうまく表現できたでしょうか？患者様に選ばれる病院になるために、また病診連携の促進に、このホームページがお役に立てばうれしいです。



## 健診部の紹介

- 「集団健診」から「個人健診」へ -

健診部長兼内科部長 田邊 一郎

この欄では、「健診部」の現状と展望について簡単に述べてみたいと思います。健診部は、全国労災病院運営の重点項目に置かれる「勤労者予防医療部」の片翼を担う、成人病健診、1日人間ドック、一般健診をはじめとする各種健診を受け持っています。地域、職域健診を合わせると、受診者は年間3,000名を数え、さらに年々増加傾向にあるとあって、スタッフ一同嬉しい悲鳴をあげているといった現状です。

診察は大塚先生（火）、重澤・酒井先生（金）および田邊（月、水、木）が受け持ち、放射線科の伊藤、鈴木看護師がサポートしてくれます。6月からは専属として松浦保健師が配属され、生活指導も積極的にこなしてくれています。さらに嚴重な指導が必要と認められれば、清水・越智両栄養士による栄養指導と、各理学療法士による運動指導がストレートで受講できる体制を整えております。また、事務方は大量の個人データを速やかに間違いなく受診者にフィードバックできるよう奮闘するとともに、新しい健診希望者を開拓する努力も続けております。

今後の健診部の発展は、なんとといっても最近の健康志向の強まる中で、いかに個人的なニーズに応えてい

けるかにかかっていると思われまます。今まさに「集団健診」から「個人健診」への転換期であるという認識のもとに新しい健診の在り方を模索していくつもりです。そして、脳ドック（MRI＋眼底検査）や、肺がんドック（ヘリカルCT＋喀痰）、レディースドック（乳房軟線撮影＋超音波）など多彩な「専門ドック」や、最近、関心の高い睡眠時無呼吸症候群のための「終夜ポリソムノグラフィー」健診、果ては夢ながら、PET（陽電子放射断層撮影装置）健診など、他病院の健診とは一味違った、働き盛りの勤労者ニーズに応えられる、高度な最新装置による病気の“超”早期発見を目指して頑張っけてゆきたいと考えておりますので、皆様のご支援のほど、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



## 勤労者予防医療部の紹介

勤労者予防医療部の1年を振り返って

勤労者予防医療部部長 篠原 功

当院では、昨年度より勤労者予防医療部を設置し、死の四重奏と言われる肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症のある方やその危険のある方の生活習慣の改善を目的に活動を行っております。昨年度は、主に健康診断受診者で異常のある方を対象に、栄養管理士、理学療法士により食事指導および運動指導を行いました。これら成人病は心筋梗塞や、脳梗塞などの重篤な病気を引き起こすまでは自覚症状に乏しく、指導を受けても実行したり、それを継続したりするのが難しい面もあります。今後は継続した指導が行えるようなメニューや、あるいは気軽に参加できるようなコースをしたり、広く一般に啓蒙活動を行ったりする必要があると考えております。幸い、当院には優秀な専門医やコメディカルがそろっており、医学的な根拠をもとにした愛媛労災病院独自の活動を行いたいと考えております。また、本年度より保健師の参加も得られ、生活指導および保健指導も併せて行うことができるようになりました。活動の幅が広がるとともに、現在のスペースでは手狭となっており、勤労者予防医療センターとして更にレベルアップするべく、場所の問題も含めて現在検討中であります。今後も、愛媛労災病院の活性化を支える一つの柱となるべくスタッフ一同努力していきたいと思ひます。

保健師としての新たな出発

勤労者予防医療部 松浦敬子

平成16年6月1日より勤労者予防医療部のスタッフとして生活指導を担当することになりました。看護師、助産師を経て、今保健師としての新たな出発となります。病棟を離れて業務するのは初めてであり、また新しく立ち上げられた勤労者予防医療部での自分の役割の重さを考えると、不安と希望が入り混じった複雑な心境です。

現在、産業構造や職場環境の変化に伴い勤労者の過労死が新たな社会問題として浮き彫りになってきました。その原因要素のひとつとして生活習慣病があります。私は今回、勤労者予防医療部での活動を開始して、生活習慣病を抱えながら働いている人の多さに驚くと共に、私に与えられた役割の重要性を再認識しました。

「この病院では健康診断を受けると生活指導もしてもらえて安心！」と皆様に思っただけのよう他のスタッフと連携を図りながら前向きな姿勢で取り組み、今後更に地域社会に働きかけ生活習慣病の予防にまで活動を拡大していきたいと考えています。

皆様の健康は良好ですか？ ご家族の方々にもぜひ健康診断をおすすめします。

## 当院における医療安全活動

リスクマネージャー 平井三重子

機能的・効率的に患者に安全な医療をいかに提供するか、その視点から、今チーム医療のあり方が問われています。「人間は、誰でも間違える」からこそ、こうしたエラーを防止できるチーム体制をいかに構築するかが重要です。

当院も医療安全管理体制を目的に、インシデントレポート報告体制、院内組織体制の整備は、整いました。しかし、それだけでは十分とはいえません。安全管理は、職種を問わず、病院職員1人1人が医療の質と安全の確保は職員の責務であることを自覚し、全員で取り組んでいくことが必要だと思います。そのためには、医療の安全文化を如何に醸成させていくかが課題となります。

当院では、安全文化を醸成させる取り組みのひとつとして、平成14年より医療事故防止への包括的アプローチとして、院長を中心に多職種チームによる医療安全パトロールを実施しています。今回で4回目を迎えることができました。回数を重ねる毎にパトロール隊のチェックする視点が『まと』を得て、患者の安全管理を確保する視点へと変化していきました。パトロー

ル結果のフィードバック・改善方法として、医療安全対策委員会で報告し、病院全体の課題を抽出し改善策を立案しています。このことにより、組織横断的な取り組みとなり、医療機関全体で支える体制へと変化していったと思います。

今後、医療の質とその効率性の向上を目指す総合的なマネジメントは、病院経営において不可欠です。リスクマネージャーとして、部門間の調整を図りながら、客観的に現在の活動を評価し、患者が安心して満足できる医療が提供できるよう、組織全体の総合的質管理の一貫として取り組んでいきたいと思っています。

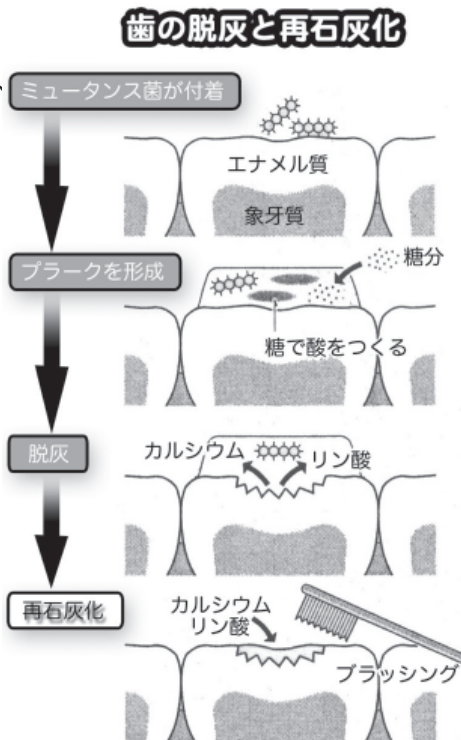


## 歯科からのお知らせ

歯科衛生士 永易啓子

アイスやビールが美味しい季節になりましたが、歯がしみたり、痛みがあるようなことはありませんか？今回は虫歯についてお話しします。

虫歯とは？ 歯の表面のエナメル質に付着したミュータンス（細菌）、糖분을材料にねばねばしたプラーク（歯垢）を作り、プラーク内で糖分から酸をつくり出し、その酸によってエナメル質からカルシウムやリン酸が溶け出し脱灰が起きる。これを虫歯といいます。通常、口の中は中性に近く、飲食をすると酸性が強くなり、中性が酸性を上回ると脱灰が始まります。時間がたつと唾液の働きで中性に戻り始め、唾液中のカルシウムやリン酸が再びエナメル質に補給されます。この現象が最近よく耳にする「再石灰化」です。脱灰が再石灰化を上回れば虫歯に進行し、逆なら虫歯にならずに初期の虫歯に戻る



期待ができます。

それらにおける対処法・予防は？

「歯を磨きましょう」ですが、これがなかなか難しく、一人一人にあったブラッシングを正確にしていかなければなりません。プラークは単なる食べかすではなく菌の塊で、容易には除去することはできません。再石灰化するには時間が必要なので間食のとり過ぎ、だらだらと長時間食べ続けるのは控え、食後30分以内のブラッシングを心がけることが大切です。きちんとプラークを除去できた上でのデンタルガム（キシリトール・リン酸化オリゴ糖カルシウム等を配合したガム）やフッ素などの併用が有効です。デンタルガムは簡単に手に入れることができ、唾液の分泌を促す上に、菌に酸をつくらせない、口腔内を中性に近づけカルシウムやリン酸を供給する、などの「再石灰化」への促進効果が高いといわれています。次回は正しいブラッシングについてお話ししたいと思います。



夏かぜ

小児科

気温の高い日が続き、本格的な夏が近づいてきました。気温の変動が激しく、体力の落ちやすい夏はかぜの多い季節です。今回は夏に多い小児の感染症について紹介します。夏かぜのほとんどはウイルスによる感染で、せき、鼻汁、発熱、のどの痛み、下痢、腹痛、発疹などが主な症状です。夏かぜの代表的なものとして以下のものが挙げられます。

1) ヘルパンギーナ

コクサッキーA群ウイルスによる感染症です。急に38-40℃の発熱を認め、のどの痛みを伴います。その他の症状として、食欲不振、全身倦怠感、頭痛、関節痛などがあります。軟口蓋を中心に、直径2-4mmの小水疱や潰瘍を認めるのが特徴です。乳幼児に多く、回復のはやい病気です。

2) 手足口病

コクサッキーウイルスなどエンテロウイルスによる感染でおこります。4-6日の潜伏期の後、口腔粘膜、四肢末端に発疹が出現します。低年齢であるほど、手、足、口のすべてに発疹がでやすくなります。熱はあまりでませんが、下痢や嘔吐をとともなうことが多いです。合併症として脳炎、脳脊髄炎がおこる頻度が高くなるので注意が必要です。

3) 咽頭結膜熱

アデノウイルスが原因であり、口、鼻、結膜より侵入します。プールを介して流行することがあり、プール熱ともいわれます。気道、便中にウイルスが存在するため、飛まつ感染、糞口感染でうつります。潜伏期は約5-7日で39℃前後の発熱を伴います。のどの痛みが強く、真っ赤になります。腹痛や下痢をとともなうこともあり、目は充血し目の痛みやまぶしさを訴えます。目やにがでることもあります。感染力が強いため、タオルや洗面器は別にしましょう。

アデノウイルスやエンテロウイルスには著効する薬剤がないため、まずは安静にして過ごします。咳や鼻汁に対する対症療法のための薬を使い、かぜが長引いて細菌の二次感染が疑われたら抗生剤を使います。脱水症状に気をつけて水分をとり、のどごしのよいものを食べて過ごします。まわりの大人が手洗いうがいをすることも大切です。

私の仕事

歯科衛生士 永易啓子

3年くらい前までは、治療の介助が主な仕事でしたが、今は予防の方に力を入れるようになり、スケーリング（歯石除去）、ブラッシング指導に重点を置くような歯科衛生士本来の仕事をしています。

そのせいか、患者様自身が、だんだん上手にブラッシングできるようになり、口の中がきれいになってきたなあと感じることが多くなってきました。スケーリングが終わった時に、患者様に「すっきりして、気持ちいいです」と言われると、うれしくなります。でも「痛い!」と言われることもあります。8020運動があるように（80歳まで、20本の歯を残そう）、1本でも多く自分の歯でおいしく食べられるように、毎日頑張っています。

「体の中で、歯の治療が1番痛い、怖い」と言われる方が多く（私もそうですが）、のぼしのぼしにされやすいですが、歯は自然治癒しないので、早めの歯科受診をおすすめします。早いうちに処置すれば、痛みもなく、少ない回数で終わります。今は、一通り治療が終わった方には、1カ月、3カ月、6カ月ごとのメンテナンスを行っています。定期的に受診されることで、虫歯の早期発見にもなりますし、口腔内清掃も行い、ブラッシングの不十分なところや、歯磨きの仕方をアドバイスしています。現在、売店で販売している歯間ブラシ・ワンタフトブラシや、乳酸菌LS1（虫歯の心配がなく、歯周病菌だけをやっつけてくれるすごい乳酸菌で、口臭も改善されます）など、その患者様に使っていただきたいものをおすすめしています。

今後は、入院患者様で、介助の必要な方の口腔内清掃も行えるように、動き出したところです。こうでなければいけないという型にはまった衛生士ではなく、いつも進化していける衛生士になればと思っていますので、今後ともよろしくお願ひ致します。

次回は、運転手の石井隆さんをお願いします。

愛媛労災病院市民公開講座「健康教室」予定表

会場：愛媛労災病院南館2階・大会議室

時間：15：00～16：30

回数	開催年月日	演 題	講 師	座 長
第12回	H16.08.19 木曜日	高 血 圧		見上俊輔・循環器科副部長
		① 高血圧について	佐藤 晃・循環器科部長	
		② 高血圧とその食事	清水 亮・管理栄養士	
第13回	H16.09.15 水曜日	救 急 処 置		金城智恵子・看護部長
		① 家庭のできる救急処置	西山芳憲・集中治療部長	
		② 家庭のできる応急処置	泉 敦子・看護師長	
第14回	H16.10.21 木曜日	産婦人科からのお話		大塚恭一・産婦人科部長
		① 子宮筋腫について	宮内文久・産婦人科部長	
		② リラックスできる「ヨーガ」	深川由美・助産師	
第15回	H16.11.18 木曜日	生活習慣病について		中井一彰・内科医師
		① 肥満	幡中雅行・内科医師	
		② 肥満の運動療法	堀内 桂・理学療法士	
		③ 生活習慣病に対する食事療法	西 麻希・管理栄養士	
第16回	H16.12.16 木曜日	神経痛・腰痛		西岡幹夫・院長
		① 神経痛とペインクリニック	伊藤雅治・名誉院長	
		② 腰痛について	砂金光藏・整形外科部長	

雪辱

歯科副部長 千葉晃義

梅雨の合間の爽やかな6月17日、前回大敗した住友戦が行われ13対1で大勝しました。この試合のMVPは医事課の鈴木君です。すべての打席で出塁し、独特の間合いで相手ピッチャーをかく乱、ついでに守備陣もかく乱し相手エラーを誘い大量13点を奪い前回の雪辱を果たしました。これで2勝1敗となり首位に立ちました、次は十全病院戦です。楽しく勝ちたいと思います。



病診連携室より

病診連携室では、7月に近隣の医療機関の先生方をお招きして、懇話会を開催することを検討しています。懇話会の目的は、日頃からご協力いただいている先生方に直接ご意見を伺い、今後の参考とすると共に、より良い連携体制を作っていくよう交流を深めることにあります。また、連携を推進していくにあたり、近隣医療機関の先生方からのご要望や、私達が取り組んでいくべき課題をお聞きするために、事前にアンケートを実施することに致しました。アンケート内容は、当院における現在の連携への取り組み体制や、紹介患者様についての報告等に関するものとなっています。結果につきましては、当日の懇話会において報告する予定となっております。

また、懇話会に引き続いて、ささやかな懇親会も予定しており、これを機会に交流を深めていければと思っております。そのためにも、院内の先生方にはぜひ積極的にご参加いただき、様々な意見を交換しあっていただければと思います。やはり連携をより良く進めていくためには、人と人とのつながりが不可欠です。お互いを知ることにより、スムーズな連携が成り立っていくのではないかと考えています。今後の連携の為にも、皆様の積極的なご参加をお待ちしておりますので、どうぞよろしくお願い致します。(病診連携室 秋岡)

庶務課からのお知らせ

—人事異動—

【退職】

(6月23日付け)

歯科 部長 村上 通隆

(6月30日付け)

放射線科 部長 篠原 功

【採用】

(6月7日付け)

勤労者予防医療部 栄養士 越智真由美 (嘱託)

(6月10日付け)

北4病棟 助産師 柳原 真紀 (嘱託)

(7月1日付け)

放射線科 部長 酒井 伸也



人の一生は重荷を負うて遠き道を行くが如し、急ぐべからず。徳川幕府の祖、徳川家康(一五四二―一六一六)の遺訓を思い出しました。

冬の間穴にこもっていた蟻は、春になると地上に這い出し活動を始めます。いつもの坂道を私が散歩していると、蟻が大きな蝸牛を曳きながら上っていました。重いのでしよう、じぐじぐ、遅い歩みでした。

今月の一句  
蟻の曳く  
蝸牛や重し  
坂の道  
みきを

編集後記

「いしづち」創刊1周年のようです。毎月1回発行(月刊)は厳しいものがあります。原稿は、一応20日締め切りですが、20日までにすべての原稿がそろった試しはありません。すべての原稿がそろおうを待っていたら編集会議に間に合わないの、ぼちぼちと既着のものからレイアウトを開始し、遅れている原稿を待つ、あるいは催促する。多くは25日前後に編集会議を開催し、内容の最終確認をし、月末までには印刷

所にデータを渡すという段取りになっております。編集会議から印刷所にデータを渡すまでの数日間に、誤字脱字などの訂正情報が、庶務課経由で届けられて、訂正を行います。それで何とか翌月の5日前後には、仕上がった印刷物が届けられ、配布するということとなります。なお、編集会議の後半は、次の号の企画検討にあてられ、おおよその割り振り、原稿の依頼先を決めます。1月の過ぎるのが猛烈に早く感じられて、うつ病になっている暇もないのが舞台裏であります。(Y.I.)

広報紙編集メンバー

病院長(西岡幹夫), 医局(宮本和久, 稲見康司, 木戸健司), 看護部(峰平一二美, 山根千春), 庶務課(佐藤 求, 稲富小百合), 医事課(秋岡裕子), 薬剤部(伊丹元治), 放射線科(正岡憲治), 検査科(近藤雅子), リハ科(寺松寛明), 栄養管理室(清水 亮)